

ISO/PC 283 (労働安全衛生マネジメントシステム)

第3回会議(ポートオブスペイン(トリニダード・トバゴ)、2015年1月19日～24日)

コミュニケ

ISO/PC/283は、トリニダード・トバゴのポートオブスペインにある Hyatt Regency ホテルにおいて第3回会議を開催した。会議は、労働安全衛生協会 (IOSH) の政策・広報部長である Richard Jones 氏によって開会が宣言され、氏は、同協会が PC の第3回会議を主催することを喜ばしく思っていることを述べた後、IOSH の活動について説明した。次いで、トリニダード・トバゴ標準局 (TTBS) の事務局長である Theodore Reddock 氏から同標準局の作業の説明と、トリニダードへの代表団を歓迎する短い挨拶があった。



第3回会議に出席した代表者たち

2014年3月/4月の第2回会議では、PCのワーキンググループ1 (WG1) が、ISO 45001の作業原案 (WD) を委員会原案 (CD) に進めるため、作業原案に寄せられたコメントについてレビューした。会議の直前にプロジェクトの適用範囲が拡大され、規格原案内の要求事項の適用に関するガイドラインを示す附属書が含まれた。

残念なことに、WG1に属するタスクグループ (TG) のすべてが割り当てられた時間内にその活動を完了できたわけではなく、これは特に、ガイドラインの附属書に関してはそうであった。そのため、会議後に追加作業を行う必要が生じ、一部のTGは電子的に作業を進め、その作業を完了させて、あるTGは追加会議を開いた (PCは、この会議を主催してくれたドバイのロイドレジスターのオフィスに謝意を表す)。

CDのすべての部分が開発され、それらが一つにまとめられて編集され、次に、その出来上がった原案をCDとして進めることが適切かどうか決定するため、WG1のエキスパートによるレビューを求めて回覧された。エキスパートの大多数がそれに賛同の回答をして、CDは7月にレビューと投票のためにPCメンバーに回覧された。

10月のCDに対する投票の結果、複数のメンバーが本文の完成度に懸念を示したことから、次の（国際規格案又はDISの）開発段階に進むことが承認されなかった。（投票結果は、賛成が29票、反対が17票、棄権が1票だった。ISOでは、投票によるCDの承認に2/3の多数決が必要である。）この投票ではまた、約2500件のコメントが寄せられ、本文の改善のための提案が示された。

PCは、コメントの処理を開始するための次回会議をキガリで開催するよう、ルワンダ標準局から招待を受けたが、残念ながらこの親切な招待は受けることはできず、PCは代替となる開催地を探し出す必要があった。このとき、委員会の公認“リエゾン”メンバーであるIOSHから、トリニダード・トバゴ標準局の支援を得て、このギャップを埋める申し出があり、PCは謹んで、作業を継続するためにポートオブスペインに来ることになった。

会議に先立ち、寄せられたコメントの検討の過程で、「労働者」の定義のような多くのコメントを生むことになったポイントとなる問題の存在がいくつか明らかにされた。次回の会議内容を準備計画するWG1の作業を方向付けるため、これらの諸問題に対するWGのエキスパートの当面の反応を図るための簡単な調査が行われた。

第3回PC 283会議のオープニング総会で、PCのメンバー数がPメンバー54、Oメンバー16、リエゾン組織15に増加したことが留意された。第3回会議に出席した代表者70名のうち、20名は初めての参加であった。

事務局は、ISO/IEC 17021の新しいパートとして、OH&S MS 監査資格要求事項の策定に着手する計画はDIS投票が始まるまで延期すべきであるという見解を示し、その見解で合意に達した。同じく、OH&Sの主なパフォーマンス指標に関する規格の策定は、予備会議の席上でスウェーデンが提起したように、ISO 45001の作業がさらに進捗してから着手することが望ましいと勧告した。

オープニング総会でのWG1からの報告では、CDについて受け取ったコメントの分析が発表された。この分析では、各箇条に対するコメントの分布が非常にばらついており、箇条によっては非常に多くのコメントがあり（例えば、用語に関する箇条3及び箇条6では「リスク」への対処に関して）、あるいは非常に少ないものもあることを示していた。WG1はまた、WGのその週の作業計画を発表すると共に、引き続きタスクグループ（TG）に分かれて規格の様々なセクションに取り組む予定であることを伝えた。

PCはWG1の新しい幹事としてLudvig Hubendick（スウェーデン規格協会、SIS）を迎え、そのツインのWG1幹事としてAbabo Peace（ルワンダ標準局）を歓迎した。新しい職に就いた前幹事のKarin Bagge（SIS）への歓送の辞が表明された。

PCのオープニング総会に続いて、WG1は、WG1総会でまず調査の結果を検証し、そのポイントとなる諸問題の解決に努めることを決定した。これによってWGは、コメントをより迅速に解決できるのではないかと期待した。

WG1総会は、1日半続いた。いくつかの問題については暫定的な合意に達したが、他のものについては、本文に現れる文脈の中で調査検討する必要があることが指摘され、関連のタスクグループに送られて、検証されることになった。次いで、WG1は6つの異なるTGに分割されて作業が継続されることになった。

さらに3日半の集中的な作業の後、各タスクグループはコメントのレビューをどうにか完了し、WG1総会が再開された。改訂本文の全体的かつ最終的なレビューを行うための十分な時間がWGに残されていないため、様々なタスクグループからのアウトプットは、一つにまとめて編集チームが編集することが望ましいという旨の提案があった。この編集された原案はWG1のエキスパートに送付され、第2の委員会原案（CD2）としてPC 283のメンバーに回覧することが妥当であるかどうかを検討されることになる。

続くPC 283クロージング総会ではWG1の提案が支持され、また本文中で使用する用語に関する決議が採択されて、CD2の完成を目指すことになった。

事務局は現在、編集されたISO 45001のCD2がWG1から送られてくるのを待っているところであり、それを受けてPCメンバーに回覧してレビューと投票を求める予定である。

要約すると、PCとそのWG1は、この規格策定段階で解決に努めなければならない非常に難しい問題がいくつかあった。最初のCDが承認されなかったことは、それに関してなすべき作業がまだ多くあることを示唆しており、そのために多少の遅延が生じている。これらの主要な問題に今すぐ取り組むことにより、今後の進展を加速化できることが期待される。